

令和元年度「関西の活かしたい自然エリア」エコツアー体験学習

東播磨・北淡路（自然エリア 9） 『東播磨ため池群と低層湿原における水辺環境と生物多様性』

「関西の活かしたい自然エリア」の保全・活用のため、自然エリアを対象として、エコツアーの体験学習を行いました。

1 はじめに

関西広域連合広域環境保全局は、関西全体で広域の環境保全に取り組み、「環境先進圏“関西”」を目指しています。その一環として、関西市域の自然史博物館のネットワーク等を活用して生物多様性情報を共有し、わかりやすい形で表現することに取り組んできました。

「関西の活かしたい自然エリア」は、その取り組みの成果として、平成 28 年（2016 年）11 月、森・川・海のつながりを重視し、府県の境界にこだわらない広域的な視点に立ち、生物多様性保全上重要な地域として選ばれた 23 地域で、インターネット上でも公開されています。

この自然エリアを積極的に活用し、自然エリアを守り育てていくための手法としてエコツアーに注目しました。自然エリアでのエコツアー実施の可能性をさぐる「エコツアー体験学習」を、平成 28 年度（2016 年度）から毎年開催し、これまで「琵琶湖・淀川」エリア、「北摂・南丹」エリア、「紀伊水道とその沿岸」エリアで実施しました。

そして 4 回目となる今回は、自然エリア 9「東播磨・北淡路」エリアを対象に実施しました。

2 エコツアー体験学習の目的

このエコツアー体験学習は、以下の目的をもって実施しています。

- 地域の生物多様性や自然の恵みの重要性、およびそれらと関わる地域の人々の営み（歴史や文化）への気づきと理解を深める。
- 地域にある博物館などの施設や、地域で活動する NPO などの団体、地元の産物を利用した食事などが、どのようにエコツアーに活用できるのかを体験的に学ぶことで、自然エリアを活用したエコツアーを、行政や活動団体、旅行会社、教育機関などが企画・運営するための足掛かりとなる。

この体験学習が「関西の活かしたい自然エリア」のみならず、地域の自然資源を活用し、その理解を深め、保全や持続的利用を促すことにつながるエコツアーへと展開する、きっかけになることを期待しています。

3 日程・参加者等

- 日程：令和元年 10 月 8 日(火)。
- 参加者：関西地域の旅行業関係者、博物館関係者、行政関係者、学生等の計 13 名。
- 訪問地間の移動：貸し切りバスを利用。
- 各訪問場所にて：有識者や保全活動実施者等に、訪問地の特徴や歴史、見られる生きもの、活動内容などを解説していただきました。

4 自然エリア 9「東播磨・北淡路」について

兵庫県は全国で最もため池数の多い県です。特に、東播磨・北淡路エリアは瀬戸内海式気候で雨が少ないため、灌漑用のため池が多く存在します。

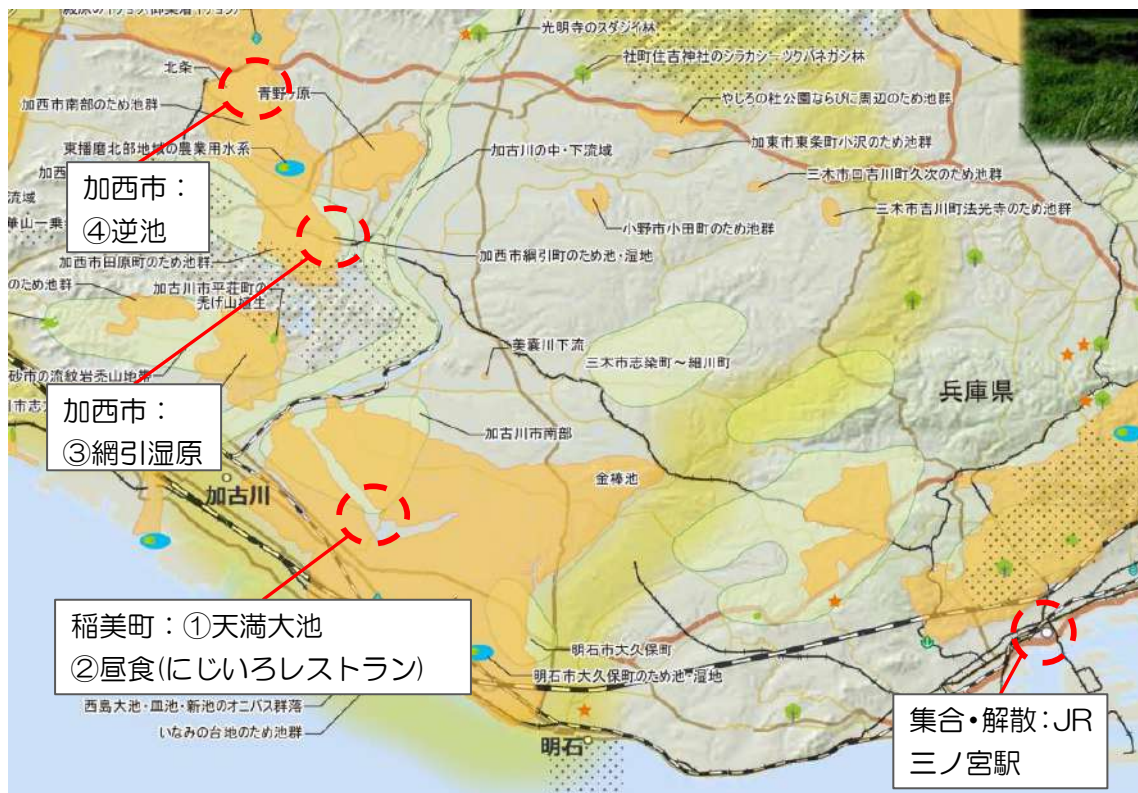
それらのため池群には、水辺環境に依存する植物、昆虫類、両生類が多く生育・生息しています。これら動植物の存続には、ため池環境の多様性と健全性の維持が不可欠です。

また、ため池は農業用水の供給や生物多様性の保全だけでなく、水害の緩和、水産物の供給、地域コミュニティの形成など、多様な機能をもっています。

地域の伝統・文化の維持継承といった点でも、ため池群は重要な役割を果たしています。

5 エコツアー体験学習の行程

■各訪問先の位置



■当日の行程および所要時間

	目的地等	所在地	着時間	発時間	備考
	JR三ノ宮駅 発	神戸市		8:30	
	移動 (バス)				(車内で概要説明)
①	天満大池	稲美町	9:25	10:55	ため池の歴史と活用、絶滅危惧植物アサザの保全活動、外来種ナガエツルノゲイトウ、アカミミガメの除去活動
	移動 (徒歩)				
②	昼食 (にじいろレストラン)	稲美町	11:00	12:00	J A直営の地元食材をつかったバイキング形式レストラン。天満大池横。
	移動 (バス)				
③	網引湿原	加西市	12:30	14:30	低層湿原の視察、保全活動の紹介、生き物の観察等。
	移動 (バス)				
④	逆池	加西市	15:00	16:00	ため池の水上発電利用、外来種オオバナミズキンバイの対策、湿生・水生植物の生育。
	移動 (バス)				
	杜パーキングエリア	加西市	16:15	16:45	休憩
	移動 (バス)				(車内でふりかえり)
	解散 (JR三ノ宮駅)	神戸市	17:30		

※①～④がエコツアーでの訪問地です。

6 各訪問地の概要と当日の様子

■訪問地① 天満大池

(1) 天満大池について

稲美町を含む兵庫県の東播磨地域は、瀬戸内海式気候で雨が少ない気候と保水力の低い丘陵地の地形という地域の特性があり、この地の人々は古くから水不足と戦ってきました。ため池の多さから、水不足がいかにかんげいなものだったかが伺えます。特に、稲美町は町面積の12%をため池が占めている、ため池の集中地帯です。

「天満大池」は、兵庫県のため池では最も古く、西暦675年ごろの築造とされています。この池の水はとても重要であったようで、水を巡る争いが絶えなかったようです。

現在の天満大池は、総貯水量47万6千トン、満水面積34.6ヘクタール、灌漑面積193.5ヘクタールとなっており、同じく稲美町にある加古大池に次いで県下第2位の面積を誇ります。池の東側には昭和59年（1984年）から整備した2.4ヘクタールの天満大池公園があり、地域住民の憩いの場として、釣りやバードウォッチングを楽しむ人がたくさん訪れます。

大池に隣接する天満神社では、毎年10月に祭が開催され、五穀豊穡を祝って大池に神輿を投げ入れる神事が行われるなど、昔から人々の暮らしと深く関わってきた池です。

地域の人々の手により希少な水生植物であるアサザの保全活動が行われるほか、近年は外来生物法の特定外来生物に指定されている水生植物ナガエツルノゲイトウの侵入が確認され、地域住民や行政等、様々な主体の協力により駆除活動が行われています。

<参考 URL>

◆稲美町商工会

<https://www.inami.or.jp/more/page5.html>

(2) 当日の様子

天満大池ため池協議会の方に、天満大池の歴史や地域の治水・利水の話をしていただきました。また、地域住民の方々による希少植物アサザ保全の取り組みや、特定外来生物ナガエツルノゲイトウの駆除の取り組みを、実物を紹介しながら説明して頂きました。



天満大池の歴史や治水に関して
パネルを用いた解説



ナガエツルノゲイトウの
駆除の取り組みを解説

■訪問地② にじいろレストラン

(1) にじいろレストランについて

もっと日常的に、たくさんの野菜を提供できるお店でありたい。それが JA 兵庫南が提案する「にじいろレストラン」です。野菜の種類をなるべく多く食べられるよう、シェフが魅力あるレシピを考案しています。地元生産者が心をこめて作った「安心」、「安全」、「新鮮」な野菜を提供できるように、心がけていきます。

＜上記の文章は下記 URL より引用しました＞

◆にじいろレストラン ホームページ（JA 兵庫南）

http://www.ja-hyogominami.com/eino/nijiiro_restaurant.html

(2) 当日の様子

天満大池に隣接するにじいろレストラン（JA 兵庫南の運営する直売所「にじいろふぁ～みん」内）にて昼食をいただきました。地元産の新鮮な野菜などを利用した様々な料理が並ぶバイキングでした。とても美味しく品数も豊富でした。お値段は一人あたり 1,630 円。



天満大池に面した
「にじいろレストラン」



地元の新鮮野菜を用いた料理の数々

■訪問地③ 網引（あびき）湿原

(1) 網引湿原について

加西市の南東部に位置する網引湿原は、兵庫県内で最大級の規模を誇る湧水湿地です。

「兵庫県版レッドデータブック 2010 植物群生」、環境省「生物多様性保全上重要な里地里山」、「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」など、様々な制度によって重要性が高い湿地として選定されています。また、湿原及び湿原に影響を与える周辺山林については、加西市の条例により「網引湿原野生生物保護地区」に指定されており、あびき湿原保存会によって保全活動が行われています。

他では見られない絶滅危惧種や希少種の宝庫で、特に、湿地の昆虫三種の神器と呼ばれる、環境省レッドリストに挙げられているチョウ・ヒメヒカゲ、日本一小さいトンボ・ハッチョウトンボ、水が無いと生きられないのに水が深いと溺れてしまう不思議な昆虫・ヒメタイコウチを一つの湿原内で見られるのは、網引湿原だけと言われています。

湿原は大きく 3 つに分かれており、湿原とは別に、雨水によって生じたため池も成立しています。

＜参考 URL＞

◆あびき湿原って凄い！！（あびき湿原保存会 代表 山下公明 氏）

<https://www.hitohaku.jp/publication/book/kyousei11-p74.pdf>

◆あびき湿原野生生物保護地区 可憐な希少種たちと出逢う道（新日本歩く道紀行推進機構）

http://search.michi100sen.jp/b/michi_portal/info/C128009/?t=list

(2) 当日の様子

網引湿原の保全活動や自然観察会を実施されている網引湿原保存会の方々に、網引湿原の特徴や、この湿原で見られる珍しい生きもの、地域住民による保全の取り組みについて、生きものの観察を交えながら解説して頂きました。



網引湿原での保全活動の解説



湿原の珍しい植物の解説

■訪問地④ 逆池（さかさまいけ）

（1）逆池について

約 70,000 m²の面積をもつため池で、約 1300 年にわたって近隣田畑の水の供給源になってきました。現在でも約 140 件の農家が、この逆池の水を使ってコメやムギを作っています。

2015 年 5 月、池の面積の約 1/3 に太陽光パネルを浮かべ、逆池水上メガソーラー発電所として竣工。水上メガソーラーとしては、当時は日本有数の規模の施設でした。

高温になると発電効率が落ちる太陽光パネルの弱点を、ため池による冷却効果が補い、また、夏場に水分が蒸発することによって起こる水不足や水質悪化を、水面を覆う太陽光パネルが防止するという相乗効果が期待され、水上メガソーラーはため池の新しい活用法として注目されています。また、ヒシ等の水草の異常発生を抑制する効果も期待されています。

メガソーラーとしてだけでなく、逆池は春には桜の名所となり、池の所有者から、パネルはできるだけ周囲の景観に溶け込むようにして欲しいという要望もあるなど、地域住民に愛される緑豊かな場所です。

池の北西端は背後の山からの湧水で湿地環境になっており、ゴマクサやミミカキグサなどの珍しい植物を見ることができます。また、池の水面にはガガブタが葉を広げています。その一方で、近年は特定外来生物のオオバナミズキンバイが侵入し、岸沿いに繁茂するなどの問題があり、駆除活動が実施されています。

＜参考 URL＞

- ◆日本経済新聞 2015 年 8 月 14 日配信 「世界最大規模の水上メガソーラー 池に 9000 枚のパネル」

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO89045590Y5A700C1000000/>

（2）当日の様子

加西市の方から、逆池への太陽光パネル設置にあたり、生きものに配慮したパネル配置に至る経緯や、オオバナミズキンバイ駆除の取り組みについて解説していただきました。その他、市が整備している加西市内の重要な生態系に関する情報整備の事業についても紹介していただきました。



逆池に設置された太陽光パネル



外来種駆除など市の取り組みの解説

関西広域連合環境保全局

令和元年度「関西の活かしたい自然エリア」エコツアー体験学習

アンケート結果

【実施日】 令和元年 10 月 8 日(火)

【回答数】 参加者 13 名分

アンケートの設問内容について

2019年10月8日（火）に実施したエコツアー体験学習の終了後に、参加者に対してアンケートを行った。その設問内容を以下に示す。ただし、Q4～Q6の設問は、旅行事業者など地域のツアープランナーとなる参加者のみ、Q7とQ8の設問は企業や自治体の研修担当者のみを対象にした設問である。

Q7とQ8については、参加者に該当者がいなかったため記載していない。

アンケートの回答人数は、13名分（うち旅行業関係者7名分）である。

Q1) 所属先・氏名

Q2) 本ツアーの各訪問地の満足度とその理由について（4段階評価）

4・・・満足、3・・・やや満足、2・・・やや不満、1・・・不満

Q3) エコツアー体験学習で良かった内容とその理由

Q4) 今回の訪問地およびコンテンツの事業や旅行商品等への取り入れの可能性について（4段階評価）

4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

Q5) 本エコツアーが一般の旅行であった場合の最高販売価格（JR三ノ宮駅発着とする）

Q6) 地域の自然資源をツアー等に取り入れる場合の課題について（日本人旅行者、訪日外国人旅行者のそれぞれを対象とした課題と、両者に共通する課題）

Q7) 今回の訪問地およびコンテンツの社内研修への取り入れ可能性について

4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

Q8) 地域の自然資源を社員研修に取り入れる場合の課題について

Q9) エコツアーを実施する際に重視する要素（食事、文化、景観、非日常の体験、自然観察、知的好奇心、その他）

Q10) 自由記入欄（ご感想、提案、アイデア等）

アンケートの結果について

設問に対する参加者の回答結果を以下に示す。Q2 と Q4 は訪問地ごとの設問となっているため、記載順が設問時のアンケート用紙とは異なる。また、アンケートの意見に関して、原文を尊重して記載した。

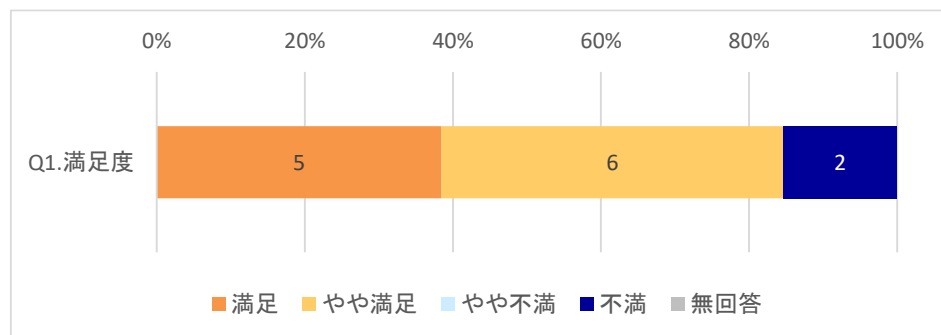
■訪問地① 天満大池

滞在時間：90 分(9:25-10:55)

内 容：ため池の歴史と活用についての解説。絶滅危惧植物アサザの保全活動や、外来種ナガエツルノゲイトウ、アカミミガメの除去活動についての解説。

Q2) 本ツアーの各訪問地の満足度とその理由について（4 段階評価）

4・・・満足、3・・・やや満足、2・・・やや不満、1・・・不満



※グラフ内の数値は回答者数、以下同様。

「満足」と回答した方の理由・意見

- ・外来植物(ナガエツルノゲイトウ)の徹底的な防除体制に感心した。(行政関係者)

「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・ナガエツルノゲイトウの対策や、アサザの保全活動など、ため池にかかる県内の活動でも参考となった。質問の時間があれば良かった。(行政関係者)
- ・取り組みがとても面白かった。(博物館関係者)

「やや不満」と回答した方の理由・意見

なし

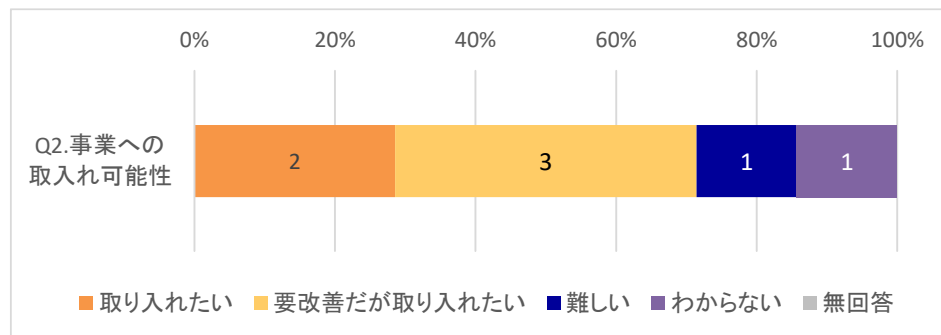
「不満」と回答した方の理由・意見

- ・知りたい内容が少なかった。(行政関係者)

Q4) 事業や旅行商品等への取り入れの可能性について(4段階評価)

- 4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

※旅行事業者や地域のツアープランナーの方への質問



「取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・外来植物(ナガエツルノゲイトウ)の徹底的な防除体制に感心した。(行政関係者)

「要改善だが取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・祭事と平行して見学できれば、参加者の興味をより引けるだろう。
- ・トイレ設備の充実が必要。

「難しい」と回答した方の理由・意見

なし

「わからない」と回答した方の理由・意見

なし

○まとめ

- ・体験、見学した内容に関する満足度としては、「満足」と「やや満足」が合わせて80%以上となった。
- ・事業への取り入れ可能性については、「取り入れたい」または「要検討だが取り入れたい」が7名中5名、「難しい」が1名となった。
- ・希少植物のアサザの保全活動だけでなく、ナガエツルノゲイトウやアカミミガメといった外来種の駆除の取り組みについての解説が好評だった。
- ・事業への取り入れの際は、祭事など文化的なコンテンツを取り入れると、より幅広い参加者の興味を引くことができるだろう。

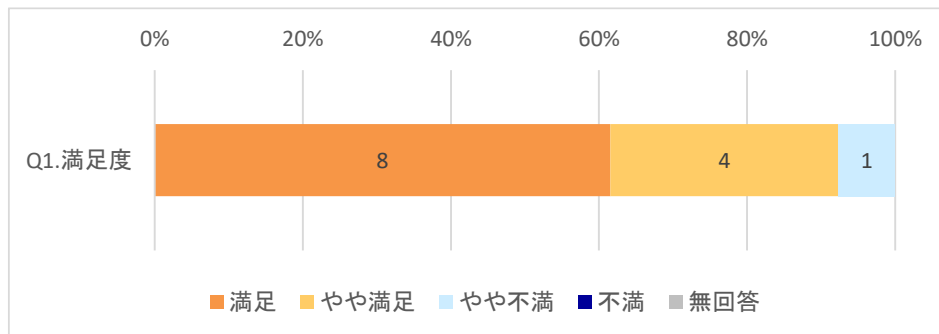
■訪問地② 昼食（にじいろレストラン）

滞在時間：60分(11:00-12:00)

内 容：JA直営の地元食材をつかったバイキング形式レストラン。

Q2) 本ツアーの各訪問地の満足度とその理由について（4段階評価）

4・・・満足、3・・・やや満足、2・・・やや不満、1・・・不満



「満足」と回答した方の理由・意見

- ・天満大池の見える場所での昼食は良かった。（博物館関係者）
- ・値段的に高く感じたが、満足。（行政関係者）
- ・品数が多く、どれも美味でした。（行政関係者）

「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・料理の種類も豊富で味も良かった。ヘルシー志向も良い。（行政関係者）
- ・味は美味しく、デザートも複数から選べて良かったですが、少しお値段高めと感じた。（コンサル）
- ・食材は豊富で良いが、団体客は厳しい。（旅行業）

「やや不満」と回答した方の理由・意見

- ・あまりリーズナブルではなかった。（行政関係者）

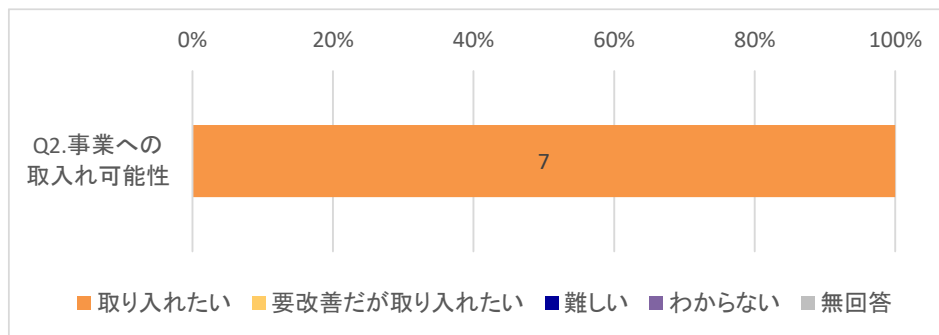
「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q4) 事業や旅行商品等への取り入れの可能性について(4段階評価)

- 4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

※旅行事業者や地域のツアープランナーの方への質問



「取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・美味しく、値段設定も良い。
- ・新鮮な野菜はとても美味しかった。

「要改善だが取り入れたい」と回答した方の理由・意見

なし

「難しい」と回答した方の理由・意見

なし

「わからない」と回答した方の理由・意見

なし

○まとめ

- ・体験、見学した内容に関する満足度としては、「満足」と「やや満足」が合わせて90%以上となり、ほとんどの参加者が満足する内容であった。
- ・事業への取り入れ可能性については、7名全員が「取り入れたい」となり、旅行業者に特に好評であった。
- ・新鮮な野菜をつかった料理や味、品数の多さが好評だった。また、天満大池を望めるロケーションも良いという意見があった。

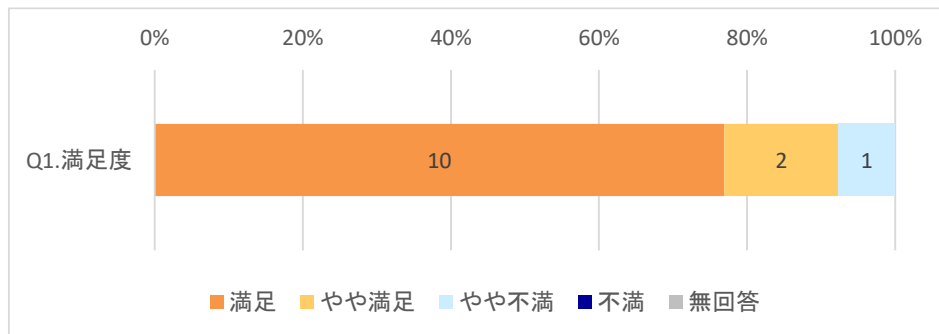
■訪問地③ 網引湿原

滞在時間：120 分(12:30-14:30)

内 容：低層湿原の視察、湿地の保全活動の紹介、湿地の生き物の観察等。

Q2) 本ツアーの各訪問地の満足度とその理由について(4 段階評価)

4・・・満足、3・・・やや満足、2・・・やや不満、1・・・不満



「満足」と回答した方の理由・意見

- ・湿地の成り立ちや植物について詳細な説明があり、良かった。(行政関係者)
- ・バイオマストイレ、行政の力を極力頼らない活動。(博物館関係者)
- ・熱心に説明いただき、日頃からの保全活動が伝わった。(行政関係者)
- ・行政が関与せずに、保存会だけで湿地環境を維持しているのは素晴らしいこと。(行政関係者)

「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・地元で守るという機運の高まり。(行政関係者)

「やや不満」と回答した方の理由・意見

なし

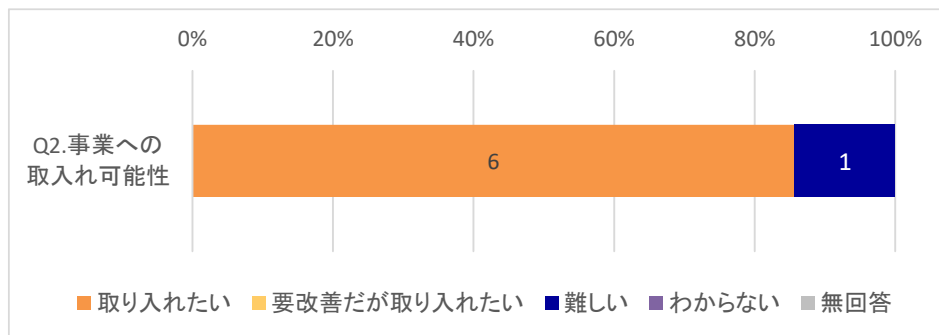
「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q4) 事業や旅行商品等への取り入れの可能性について(4段階評価)

- 4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

※旅行事業者や地域のツアープランナーの方への質問



「取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・ 珍しくて、自然が豊か。
- ・ 珍しい生物とのふれあい。

「要改善だが取り入れたい」と回答した方の理由・意見

なし

「難しい」と回答した方の理由・意見

なし

「わからない」と回答した方の理由・意見

なし

〇まとめ

- ・ 体験、見学した内容に関する満足度としては、「満足」と「やや満足」が合わせて90%以上となり、ほとんどの参加者が満足する内容であった。
- ・ 事業への取り入れ可能性については、「取り入れたい」が7名中6名、「難しい」が1名となり、旅行業者にも好評であった。
- ・ 湿地の自然環境や珍しい生きものとのふれあいはもちろん、あまり行政に頼らない保全活動、湿地の維持管理についての紹介も好評だった。

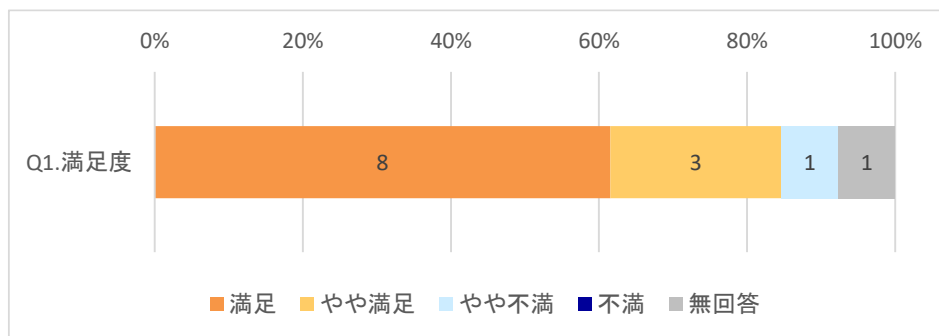
■訪問地④ 逆池

滞在時間：60分(15:00-16:00)

内 容：太陽光パネルによるため池水面の発電利用の経緯、外来種オオバナミズキンバイの対策についての解説、加西市内の重要な生態系情報整理の取り組み等。

Q2) 本ツアーの各訪問地の満足度とその理由について(4段階評価)

4・・・満足、3・・・やや満足、2・・・やや不満、1・・・不満



「満足」と回答した方の理由・意見

- ・行政目線での意見と取り組みが聞けた。(行政関係者)
- ・希少種の分布と、それを守る方法。(博物館関係者)
- ・加西市の方に説明していただけたのが良かった。もう少し時間があって、池を一周回ったりしたかった。(行政関係者)

「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・エネルギーと生物多様性の両立をしている現場を実際に見ることができて良かった。(行政関係者)

「やや不満」と回答した方の理由・意見

- ・いこいの家を利用できれば良かった。(旅行業)

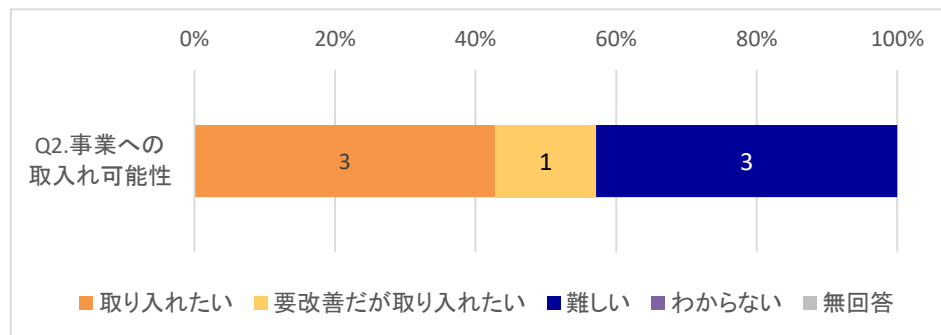
「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q4) 事業や旅行商品等への取り入れの可能性について(4段階評価)

- 4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

※旅行事業者や地域のツアープランナーの方への質問



「取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・太陽発電の視察にふさわしい。
- ・日本の科学発展。

「要改善だが取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・改善ではないが、春に桜がきれいに咲いたら、取り入れたい。

「難しい」と回答した方の理由・意見

- ・利用できるトイレがないのはつらい。

「わからない」と回答した方の理由・意見

なし

○まとめ

- ・体験、見学した内容に関する満足度としては、「満足」と「やや満足」が合わせて80%以上となった。
- ・事業への取り入れ可能性については、「取り入れたい」または「要改善だが取り入れたい」が7名中4名、「難しい」が3名となり、事業としての取り組みは難しいと考える旅行業者が多い傾向が見られた。
- ・加西市の担当者の方による、行政目線での生物多様性保全、外来種対策の取り組みの話や、地域の重要生態系の情報整理については、同じ行政関係の参加者から好評であった。

Q3) エコツアー体験学習で良かった内容とその理由

◆実際に活動している方より直接話を聞いた

- ・加西市役所の方からのお話は、同じ行政側の立場で、大変参考になった。(行政関係者)
- ・解説してくださった方のお話が、それぞれとても良かった。特に天満大池では、愛好会等ではなく池を管理されている立場の方から、重要種保全と外来種対策について聞いたのが新鮮だった。(コンサル)
- ・3か所とも活動者の方の“生の声”をしっかりと聞いて良かった。行政-住民の協力例や、博物館や研究機関の役割についても、生の話を聞け、団体として、また個人として、記憶に残るような自然体験ツアーを企画したいと思った。(学生)

◆ため池や湿地の自然環境を体験できた

- ・地元に湿地が無いため、あびき湿地を体験できて良かった。(行政関係者)
- ・湿地に実際に入り、貴重な植生を間近で見学できた。宝塚の松尾湿地、三田の皿池でも見たハッチョウトンボがいると聞き、似たような環境なのかなと思いました。(博物館関係者)
- ・自然に触れられる良い機会かと思った。普段行けない所を体験できた。(旅行業)
- ・自然についてとても深く勉強することができました。(旅行業)

◆説明・解説方法が良かった

- ・詳しく説明してもらいました。あびき湿地が一番いいと思います。中国人は日本の自然環境よく理解したいと考えています。(旅行業)
- ・説明が詳しく丁寧だったこと。初めて訪れる人にも分かり易く、勉強になる。(行政関係者)
- ・他の参加者やスタッフさんと自由に話したり、質問できる環境が整っていて、自分の団体のために何を取り入れられそうか、考えるきっかけを頂けた。(学生)
- ・外来種の現物を見ながら、「何故問題なのか？」を教えていただくことも少ないので、貴重な体験だった。(学生)
- ・生物学の専門家がガイドをしてくれたので、興味深いです。(旅行業)

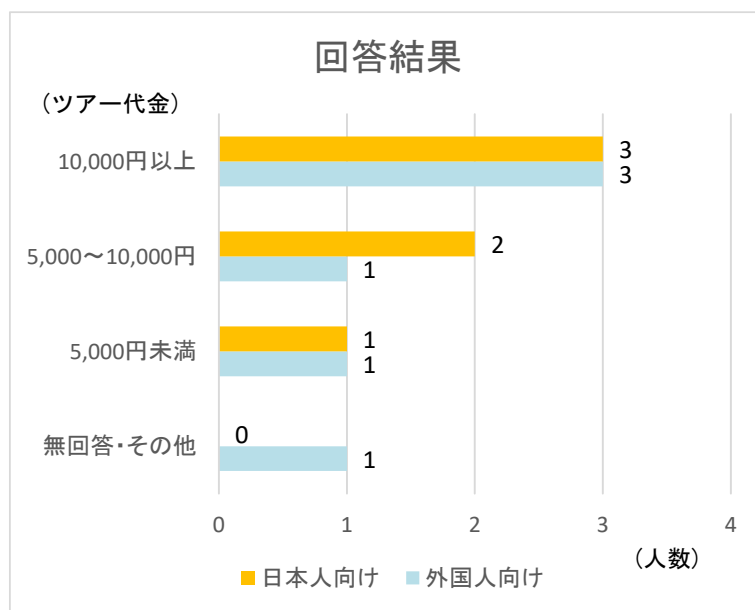
◆エコツアーや研修等のコンテンツとして

- ・県内の湿地の希少種を保全する際の参考になった。(加西市の)生態系レッドリストのパンフレットが、今後の県版生態系レッドリスト作成の参考になった。(行政関係者)
- ・環境と自然保護のツアーを作るためにこのツアーに参加したが、とても役に立つものだった。色々な素材を入手できて、大変勉強になった。またこのようなツアーに参加したい。(旅行業)
- ・加西市の取り組みが熱心であった。ツアーツールにはなるかと思う。(旅行業)
- ・中井さんのバス内でのお話は、「地域の自然をどう生かすか」「どういう伝え方をすると覚えてもらえるのか」を楽しく企画するために活かそう。(学生)

◆その他

- ・昼食場所の「にじいろふぁーみん」は非常に良かった。(旅行業)

Q5) 本エコツアーが一般の旅行であった場合の想定最高販売価格（JR 三ノ宮駅発着として）



【今回の参加人数 13 名でツアーを実施する場合の 1 人当たりの負担額】

$$171,060 \text{ 円}^* \div 13 \text{ 名} = 13,158 \text{ 円}$$

【バスの定員(正シートのみ)45 名でツアーを実施する場合の 1 人当たりの負担額】

$$223,220 \text{ 円}^* \div 45 \text{ 名} = 4,960 \text{ 円}$$

※エコツアーの費用：バス代（ガソリン代含む）、高速道路利用代、駐車場代、昼食代、ガイド謝礼、保険代

〇まとめ

- ・今回は日帰りのエコツアーであり、旅行事業者の方々は、日本人向け・訪日外国人向けともに 1 人あたり 10,000 円前後の負担額を意識されたという結果が出た。
- ・今回の参加人数（13 名）での 1 人当たりの負担額は約 13,000 円となり、旅行事業者の方々の設定金額と、比較的近い金額となった。
- ・大型バスの定員（正シートのみ）の 45 名であれば、1 人あたりの金額は約 5,000 円となり、価格的にはかなり抑えられた金額となった。

Q6) 地域の自然資源をツアー等に取り入れる場合の課題について（日本人旅行者、訪日外国人旅行者のそれぞれを対象とした課題と、両者に共通する課題）

※旅行事業者や地域のツアープランナーの方への質問

◆日本人向け

- ・「教育キャンプ」に限定すれば、可能か。

◆外国人観光客に向け

- ・（解説だけでなく）何らかの体験活動は必須
- ・（専門的な情報の）通訳の問題
- ・旅行代の問題

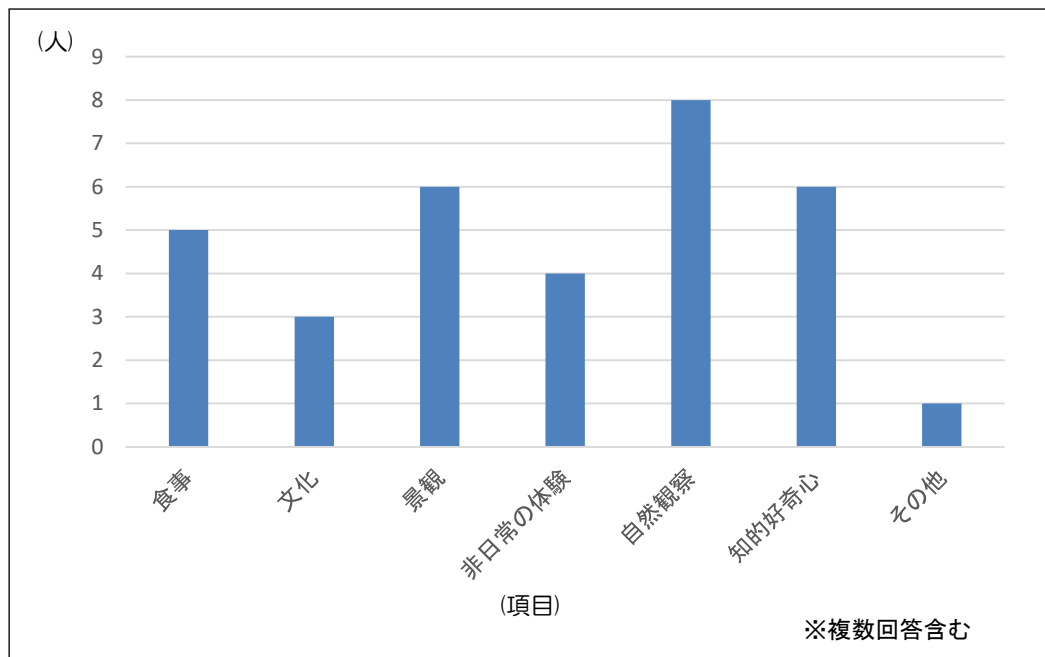
◆共通課題

- ・参加者に対して（通常の観光ではないということについて）理解、周知が必要。
- ・解説板や休憩のための椅子の設置が必要。
- ・参加者の安全のために、行先の環境の情報や服装、装備の指定などが必要。
- ・私が対応している団体は高齢の方が多く、あまり長距離は歩けない。短い距離での研修が必要。

○まとめ

- ・日本人観光客と外国人観光客を分けた設問だったが、専門的な情報の通訳以外は、共通して課題となる意見が見られた。
- ・特に、参加者に対して、通常の観光ではない「エコツアー」であるということの周知や、服装、装備の指示、徒歩移動の距離等の情報を前もって参加希望者に伝えることは、トラブルや事故のないエコツアーの運営のために重要であると考えられる。

Q9) エコツアーを実施する際に重視する要素（食事、文化、景観、非日常の体験、自然観察、知的好奇心、その他）とその理由



◆「食事」を重視するコメント

- ・やはり食事は重要。(旅行業)

◆「文化」を重視するコメント

- ・3か所のため池のように、ため池まわりの人々の関わり方が異なったり、歴史的背景がそれぞれあったりしたことなど、文化的にも面白かった。(学生)

◆「非日常の体験」を重視するコメント

- ・非日常の体験を通じて、働いておられる方～学生や定年後の方など、幅広い年齢に通用する面白い内容にしたい。(学生)

◆「自然観察」を重視するコメント

- ・どんな方にも平等で、繰り返し来てもらいたい、活動に参加しつづけて欲しいと思ったとき、カギになるのは自然だと思うので、自然観察は重視したい。(学生)
- ・里山や生物多様性に興味を持っている会員が多く、自然観察や景観を重視している。(博物館関係者)
- ・何が見られるか(野生の動植物種、独特な環境とか)を一番重視する。(旅行業)

◆「その他」を重視するコメント

- ・希少野生生物をテーマにしたエコツアーを新しく創り出し、地域が自律的に自然保全できる仕組みを整えるため。(行政関係者)
- ・参加型であるかどうか。(旅行業)

〇まとめ

- グラフでは「自然観察」を重視する参加者が最も多く、「景観」や「知的好奇心」を重視する意見がそれに次いで多かった。
- ツアーということもあり、「食事」を重視する意見も多く見られた。

Q10) 自由記入欄（ご感想、提案、アイデア等）

- ぜひ大学にもご周知いただけましたら幸いです。これからのボランティアを担っていく後輩や、いつかまた別の場所で、仕事や趣味で自然に関わる学生が参加できたら、大きな学びになると思いました。実際に、ツアーを通じて様々な考え方や団体の様子、自分の知識の浅い部分に気付くことができました。本日はありがとうございました。（学生）
- 今日の説明していただいた方は良い意味で「濃い」方であり、地元のことに詳しい方であったことが良かった。（行政関係者）
- 長時間に渡りご案内していただき、ありがとうございます。一度見てみたかったあびき湿原に行けて良かったです。今日行った4か所は季節によって顔が変わると思うので、また行けたらと思います。（博物館関係者）
- 事務局の時間管理というか、説明される方とコメントされる方の話が長く、参加者は2人のやり取りを聞かされている感じがした。エコツアーにならないと思う。（行政関係者）
- 3ヶ所とも、解説してくださった方の説明が分かりやすく、それぞれの保全の取り組みや外来種の問題・対策を実際に見られて良かった。自然・生きもの好きな人にはとても嬉しい内容と思う。（コンサル）
- ご計画ありがとうございます。各種旅行・ツアーに取り入れるのは集客の面で難しいのでは。（旅行業）
- 今日はありがとうございました。非日常の体験はすごく楽しかったです！また参加したいです！（旅行業）
- 商品として売れるかどうか分かりませんが、個人的に内容として良いツアーだったと思います。ありがとうございました。（旅行業）
- 楽しかった見学、色々な勉強しました。日本の自然と環境と科学。（旅行業）
- 体調不良によりご迷惑をお掛けしてしまい、すみませんでした。有意義なツアーだったと思います。研修にはもってこいですね。（行政関係者）